

2004年11月25日

関西地方へ紅葉狩りに（その1：東福寺）

11月17日（水）、18日（木）一泊2日で紅葉狩りに京都の東福寺、彦根城玄宮園、湖東三山、永源寺を訪れた。

コースは17日、町田 - 新横浜 8:53（ひかり 305）京都 11:20 - タクシーで東福寺 - 龍吟庵 - 即宗院 - 退耕庵 - JR東福寺 - 京都 16:00（ひかり）米原 16:22 - タクシーで彦根プリンスホテルへ - 夜景を見に彦根城玄宮園 - 彦根プリンスホテル泊 - 18日、観光バスで湖東三山と永源寺観光 - 米原 17:28（ひかり 320）新横浜 19:26 - 町田 19:59 である。

新幹線の車中では席にあった「WEDGE」11月号「議定書発行で浮上する環境税・・・」、「原油高騰に“ほくそえむ”仕掛け人の正体」などを読んで過ごした。途中、新富士付近では富士山がとても美しかったので写真を一枚撮った。（左の写真）



京都駅からタクシーで東福寺へ直行、東福寺の近くは道が狭く、運転手によると、この時期は人と車で混雑するとのこと。日下門で下車、境内も人、人、人であった。通天橋中央から臥雲橋方向の紅葉をまず1枚（下左の写真）



出発前に、インターネットで境内の配置図を見て、大体の位置関係は把握していたつもりであったが、通天橋の下を流れる川が渓谷を形成しており立体感のある地形となっていた。橋を渡ると左に愛染



堂、そして右前方に、開山堂と普門院へ通じている。開山堂の庭園は小規模であるが池泉鑑賞式庭園で江戸中期の名園と言われる。（右の写真）次のページの図は東福寺境内の全体図である。図中央を東西に流れる川

による溪谷によって境内は南北に分かれている。開山堂から通天橋へ戻り、方丈を左手に見ながら進み本堂の前を東へ、偃月橋（えんげつきょう）を渡り龍吟庵へ。ここは11月だけ開放しており案内人の詳しい説明があった。





方丈で説明を聞く



稲妻模様の竹垣



竜の昇天石組（1964年 重森三玲氏作）



方丈内部

龍吟庵の隣に即宗院があり庭園史蹟となっている。(下の写真2枚) 即宗院の裏山には西郷隆盛の「東征戦亡の碑」があった。この付近は狸が生息するらしく「狸の糞とマムシに注意」と言う縦看板があった。今年は気候が異常であったためかどんぐりをはじめ木の実がほとんど出来ず、新聞、テレビなどで報道されている各地での熊の出没も木の実による食糧難と深く関係している。



紅葉狩り(その1)

再び偃月橋に戻った。この橋は北政所（ねね）の寄進により 1603 年に作られたという。三ノ橋溪谷に架かる木造橋廊で、下流の通天橋、臥雲橋とともに東福寺三名橋と呼ばれている。



偃月橋を渡り、本堂、三門を眺めながら出口へ向かった。三門には「楼上内大虹梁」や「楼上内天井絵」があるが11月初旬のみの開館で、残念ながら見ることが出来なかった。

日下門を出て、直ぐ右に進み、臥雲橋、月下門の前を通り、退耕庵へ



左の写真を撮ったところフラッシュに警報機が作動したのかサイレンが鳴りびっくりした。特に、誰かが出てくる気配もなくしばらくすると鳴り止んだ。おそらく、しばしばある事なのかもしれない。建物の前に、小野小町の井戸があった。

商店街を通り、JR奈良線東福寺駅まで歩き、京都へ、

新幹線で米原へ、タクシーで彦根プリンスホテルへ移動した。